

小5

【話すこと（やり取り）】

Unit1 Hello, friends.
名刺交換をしよう

1 「札幌 CAN-DO スタンダード」の形での学習到達目標（小中つながり編）との関連

○名前や好きなもの・こと、誕生日やほしいもの、学びたい教科やなりたい職業について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、その場で質問したり質問に答えたりできる。【il】

2 単元名・単元の目標

単元名：NEW HORIZON Elementary 5 第5学年 『Unit1 Hello, friends. 名刺交換をしよう。』

自分のことをよく知ってもらったり、相手のことをよく知ったりするために、名刺交換をしながら、名前や好きなスポーツ・色・食べ物等について伝え合うことができる。【話すこと（やり取り）】

3 単元の学習内容

校時	学習内容	学習活動・言語活動
指導前 (既習)	Let's Try! Unit4「好きなものを伝えよう」 Unit5「何が好き？」等	児童同士でのインタビュー活動を通し、好きな色・スポーツ・食べ物・果物・野菜などの英語表現について慣れ親しんでいる。
1・2	Starting Out 場面の順を考えながら、英語を聞く。 	映像の視聴を通し、自己紹介や好きなもの・ことなどのやり取りについて、内容を推測しながら聞き、おおよその内容を理解する。
3・4	Your Turn 名前のつづりや好きなもの・ことをたずね合う。	①Small Talk～どんなスポーツが好きかたずね合おう～ ②音声から登場人物の好き嫌いを聞き取る。 ③児童同士で好きな色・スポーツ・食べ物についてたずね合う。 ④Small Talk～どんな食べ物が好きかたずね合おう ⑤音声から聞こえた名前をメモする。 ⑥自分の好きな色と食べ物について考え、友達と伝え合う。
5・6 (評価)	Enjoy Communication 自己紹介をしながら、名刺交換をする。	①Small Talk～どんな色が好きかたずね合おう～ ②自分の名前をカードに書いて、ペアでたずね合う。 ③好きなもの・ことの絵を書いたら、ペアでたずね合う ④名前や好きなもの・ことについてやり取りをしながら、名刺交換をする。
7・8	Over the Horizon 世界の名前について考える。	①Small Talk～どんな果物が好きかたずね合おう～ ②世界にある姓名について知る。

4 パフォーマンステスト例

(I) 対話例

A: Hi, I'm Aoi.
B: Hello, my name is Shoma.
A: How do you spell your name?
B: S-H-O-M-A. Shoma.
How do you spell your name?

パフォーマンステスト例（小学校）

<p>A: A-O-I. Aoi. What sport do you like? B: I like tennis. What sport do you like? A: I like soccer. B: I like soccer, too. Nice to meet you. A: Nice to meet you, too.</p>	<p>I like tennis. の後に Do you like tennis? と相手に質問することも考えられる。</p>
	<p>I like soccer and badminton. と複数进行を答えることも考えられる。</p>

(2) パフォーマンステストの実施方法・留意点

- ・10分程度、ペアでの交流を行った後、教室の前方で1組ずつ自己紹介と名刺交換を行う。
- ・児童同士のやり取りを評価する場合、対話する相手によってはパフォーマンスが異なってくることが考えられる。解決方法の一つとしては、ALTや専科指導教員とやり取りをして面接評価する方法が考えられる。テストに時間がかかることや児童が緊張することなどの課題が想定されるが、児童同士でのやり取りに比べ、一貫した評価が可能になる。
- ・全ての自己紹介が終わった後、よい点を学級全体で共有する。最後に5分程交流し、ステップアップを図って自己紹介と名刺交換をする。

(3) 指導のポイント

① 事前指導

- ・中学年外国語活動で慣れ親しんだ語句や表現も意識的に使い、自分のことについて伝え合う、やり取りのモデルを示すようにしておく。
- ・Small Talkで、What --- do you like? を取り上げる際に、話の広げ方に触れる。(例：既習の Do you like ---? と質問をし、相手の行動を促したり、That's nice. と相づちを打ってコミュニケーションを円滑にしたりするなど。)
- ・第4時までの行動観察において、「努力を要する状況」(c) と評価した児童がいた場合には、Let's Chant を聞いたり、Enjoy Communication の動画を視聴することや、数名の児童に全体で尋ねたりするなどして、やり取りの例を示し、自信をもってやり取りを行えるようにする。

② 事後指導

- ・自己評価により、自分のパフォーマンスの振り返りをさせる。
- ・「努力を要する状況」(c) と記録に残す評価した児童がいた場合には、その後の指導改善を図るとともに、改善点について、振り返りシート等に記入して助言したり、口頭で伝えたりするなど、学習改善につながる手だてを継続して行うようにする。

5 本単元における「話すこと[やり取り]」における評価規準例

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
場面	第3時・第4時	第5時・第6時	第5時・第6時
方法	行動観察	行動観察・面接	行動観察・面接
話すこと「やり取り」	<p><知識>名前や好きなもの・ことを伝える語句や表現を理解している。</p> <p><技能>自分の名前や好きなことについて自分の考えや気持ちを伝える技能を身に付けている。</p>	<p>自分のことをよく知ってもらったり、相手のことをよく知ったりするために、名刺交換をしながら、名前や好きなスポーツ・色・食べ物等について伝え合っている。</p>	<p>自分のことをよく知ってもらったり、相手のことをよく知ったりするために、名刺交換をしながら、名前や好きなスポーツ・色・食べ物等について伝えようとしている。</p>

■ 「十分満足できる」状況(a)と判断される例

たずねられた内容に即し、好きなもの・ことを答える際、I like ---, too. など、更に自分の事も付け加えたり、I like French fries. Do you like French fries? など、相手に質問をしたりして、話を広げている状況が考えられる。

小5

【話すこと（発表）】

Unit3 What do you want to study?
夢に近づく時間割を紹介しよう

1 「札幌 CAN-DO スタンダード」の形での学習到達目標（小中つながり編）との関連

○名前や好きなもの・こと、誕生日やほしいもの、学びたい教科やなりたい職業について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、話すことができる。【s1】

2 単元名・単元の目標

単元名：NEW HORIZON Elementary 5 第5学年

『Unit3 What do you want to study? 夢に近づく時間割を紹介しよう。』

自分のなりたい夢に近づくための時間割を作り、職業や学びたい教科など学習した語句や表現を使って、自分の考えなどを発表することができる。【話すこと（発表）】

3 単元の学習内容

校時	学習内容	学習活動・言語活動
指導前 (既習)	Let's Try2 Unit8「お気に入りの場所を紹介しよう」等	児童同士でのインタビュー活動を通し、校内のお気に入りの場所や好きな教科の英語表現について慣れ親しんでいる。
1・2	Starting Out 場面の順を考えながら、英語を聞く。 	映像の視聴を通し、学びたい教科やなりたい職業の伝え方について、内容を推測しながら聞き、おおよその内容を理解する。
3・4	Your Turn 学びたい教科やなりたい職業についてたずね合う。	①Small Talk～どの教科が好きかたずね合おう～ ②音声からどの曜日の日課なのかを聞き取る。 ③児童同士で学びたい教科について、友達とペアでたずね合う。 ④Small Talk～何になりたいかをたずね合おう～ ⑤音声から登場人物の学びたい教科となりたい職業を聞き取る。 ⑥自分のなりたい職業について友達と伝え合う。
5・6 (評価)	Enjoy Communication 夢に近づく時間割を紹介する。	①Small Talk～〇曜日には何がありますか～ ②自分の学びたい教科を決めて、ペアでたずね合う。 ③自分のなりたい職業を決めて、ペアでたずね合う。 ④夢に近づく時間割を考え、友達に発表する。
7・8	Over the Horizon 世界の授業について考える。	①Small Talk～何を勉強したいですか～ ②世界の授業について知る。

4 パフォーマンステスト例

(I) 発表例

A: Hi, everyone.
All: Hi.

A: Hi, everyone.
All: Hi.

パフォーマンステスト例（小学校）

A: This is my card.
 I have Japanese, P.E., science,
 English, math and science.
 I want to study science.※1
 I want to be a vet.
 B: Good luck!

A: This is my card.
 I want to be a vet.※2
 I want to study science.
 I have science, P.E., Japanese,
 English, math and science.
 B: Good luck!

(2) パフォーマンステストの実施方法・留意点

- ・児童が紹介合っている様子から評価の記録に残す。
- ・評価のタイミングによって、個別の状況に差が出るのが考えられ、児童全員を見取ることが難しい場合もある。右の例のような発表形式をとり、総括的な評価を行うことも考えられる。あるいは、第5時で(b)に至っていないと判断した児童を優先して観察し、改善が見られた場合は記録に修正を加える方法もある。
- ・2グループが一組となり、一人ずつ発表をする。一人の発表が終わるごとに、次に発表する人が英語でひとこと感想を言う。(Picture Dictionary 裏表紙内側参照) 上の例のように、グループを変えて発表する。

見取る例(8グループの場合)

- ① A-B C-D E-F G-H
 - ② C-E D-F G-A B-H
 - ③ D-G C-H A-E B-F
 - ④ F-H E-G A-C B-D
- ・指導者は網掛け部分で評価。

(3) 指導のポイント

①事前指導

- ・相手によりよく自分のことを伝えるために、伝える内容を整理した上で話したり、身振りや表情、ジェスチャーを用いて分かりやすくする工夫等について、気付かせる指導も考えられる。
- ・Small Talk で、既習である I like ---.や Do you like ---?などを用いて、詳しく伝えることや聞き手とコミュニケーションを取りながら話すことの良さに触れる。

②事後指導

- ・自己評価により、自分のパフォーマンスの振り返りをさせる。
- ・「努力を要する状況」(c) と評価した児童がいた場合には、その後の指導改善や、学習改善につながる手立てを継続して行うようにする。例えば、第5時の行動観察を踏まえ、児童のつまずきに応じて助言や支援を行い、次時の発表までの練習機会を設けるなどし、改善状況を見取るようにする。

5 本単元における「話すこと[発表]」における評価規準例

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
場面	第3時・第4時	(第5時)・第6時	(第5時)・第6時
方法	行動観察	行動観察・発表	行動観察・発表
話すこと「発表」	<知識>学びたい教科やなりたい職業を伝える語句や表現を理解している。 <技能>時間割などの質問を尋ねる技能を身に付けている。	自分のなりたい夢に近づくための時間割を作り、職業や学びたい教科など学習した語句や表現を使って、自分の考えなどを発表している。	自分のなりたい夢に近づくための時間割を作り、職業や学びたい教科など学習した語句や表現を使って、自分の考えなどを発表しようとしている。

■ 「十分満足できる」状況(a)と判断される例

学びたい教科やなりたい職業について、話す順番を決めたり、伝えたいことを整理して話している状況や既習表現を使い、内容をより詳しく話している状況が考えられる。(例:上記のモデル対話文における、「※1 既習の I like science. 等を付加。」「※2 A vet is an animal doctor. と補足説明。」など。)

小5

【聞くこと】【話すこと（やり取り）】

Unit5 Where is the post office?

オリジナルタウンで道案内をしよう

1 「札幌 CAN-DO スタンド」の形での学習到達目標（小中つながり編）との関連

- 身近な人の紹介、場所や位置についての説明、料理の注文などについて、ゆっくりはっきりと話されれば、おおよその内容を理解できる。【I2】
- 身近な人ができることやできないことについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うとともに、道案内や料理の注文などを、基本的な表現を用いて、指示や依頼をしたり、応じたりできる。【i2】

2 単元名・単元の目標

単元名：NEW HORIZON Elementary 5 第5学年

『Unit5 Where is the post office? オリジナルタウンで道案内をしよう。』

- ・友達と一緒に作ったオリジナルタウンでの道案内の説明を聞いて、おおよその内容を理解している。
【聞くこと】
- ・友達と一緒に作ったオリジナルタウンで、相手と円滑にコミュニケーションを取りながら、場所をたずねたり、答えたりすることができる。【話すこと（やりとり）】

3 単元の学習内容

校時	学習内容	学習活動・言語活動
指導前 (既習)	NHEI Unit4 	身近な人や地域のことを紹介する活動を通し「建物」の英語表現を学習している。
1・2	Starting Out 英語を聞いて、行き先までの道順をなぞる。	映像や音声の視聴を通し、道案内の仕方について、内容を推測しながら聞き、おおよその内容を理解する。
3・4	Your Turn 探し物がある場所や地図の中にある建物の場所について、案内し合う。	①Small Talk～何の地図記号かをたずね合おう～ ②音声から探し物がある場所を聞き取る。  ③児童同士で身近なものがある場所をたずね合おう。 ④Small Talk～教室内のものの場所をたずね合おう～ ⑤道案内の音声で地図上の建物の場所を聞き取る。  ⑥友達と地図を使って道案内をし合う。
5・6 (評価)	Enjoy Communication 友達と一緒に作ったオリジナルタウンで道案内をし合う。	①Small Talk～自分の町に欲しいものをたずね合おう～ ②オリジナルタウンを作り、道案内をし合う。 ③挨拶やお礼の言葉も入れて、道案内をし合う。
7・8	Over the Horizon 世界の地図や標識について考えよう。	①Small Talk～「〇〇はどこですか」とたずね合おう～ ②世界の地図や標識について知り、考える。

4 パフォーマンステスト例

(I) 対話例

- A: Excuse me. Where is your house?
B: Go straight for two blocks.

パフォーマンステスト例（小学校）

<p>A: O.K. Two blocks… B: Turn right. Go straight for three blocks. You can see it on your left. A: Here? B: That's right.</p>	<p>相手の言葉を Two blocks. と繰り返したり、応答したりしながら聞くことが考えられる。【聞くこと】</p>
	<p>相手が聞き返してきたら、もう一度説明し直すことが考えられる。【話すこと（やりとり）】</p>

(2) パフォーマンステストの実施方法・留意点

- ・やり取りの相手の「案内する役」「案内される役」をALTが担当し、指導者が評価する。
- ・本単元では、場所や建物の名称、位置を表す前置詞、道案内の基本的な表現といった多くのことを学ぶ。学校の外で実際に道案内をする場面設定はなかなかできないため、児童がそれぞれオリジナルタウンマップを作り、つなぎ合わせて大きな地図をつくり、楽しみながら取り組む。

(3) 指導のポイント

①事前指導

- ・「聞くこと」「話すこと[やり取り]」を中心とした単元構成としているが、道案内に必要な語や語句、表現をある程度使いこなせるようにならないと活動が成立しづらいため、スモールステップで取り組むようにして、表現の定着を図ることが大切である。
- ・身振りや表情、ジェスチャーなどの非言語的要素も使用するよさを取り上げる。
- ・相手が聞き返してきたり、迷ったりしている様子があれば、円滑にコミュニケーションを取れるように配慮する大切さについて触れる。（話す速度、繰り返し、質問（O.K.）等を使用する。）

②事後指導

- ・自己評価により、自分のパフォーマンスの振り返りをさせる。
- ・「努力を要する状況」(c)と評価した児童がいた場合には、その後の指導改善や、学習改善につながる手立てを継続して行うようにする。例えば、第5時の行動観察で児童のつまずきに応じて助言や支援を行ったり、次時の発表までの練習機会を設けたりしながら、児童の改善状況を見取るようにすることも考えられる。

5 本単元における「聞くこと」「話すこと[やり取り]」における評価規準例

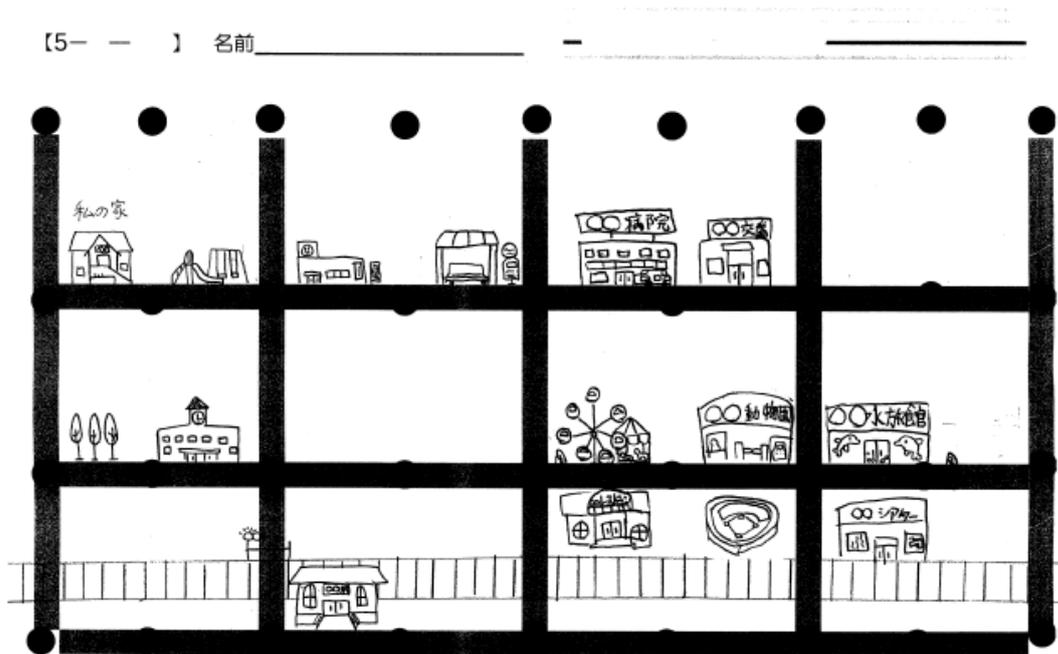
領域	聞くこと	話すこと[やり取り]	
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
場面	第5時・第6時	第5時・第6時	第5時・第6時
方法	行動観察	行動観察・発表	行動観察・発表
	<p><知識>場所を尋ねたり、答えたりする語句や表現を理解している。</p> <p><技能>道案内の説明を聞いて、おおよその内容を聞き取る技能を身に付けている。</p>	<p>場所を尋ねたり、答えたりする目的や場面、状況などに応じて、学習した語句や表現を選択したり付け加えたりして、尋ねたり答えたりしている。</p>	<p>他者に配慮しながら、場所を尋ねたり、答えたりする目的や場面、状況などに応じて、学習した語句や表現を選択したり付け加えたりして、尋ねたり答えたりしようとしている。</p>

■ 「十分満足できる」状況(a)と判断される例

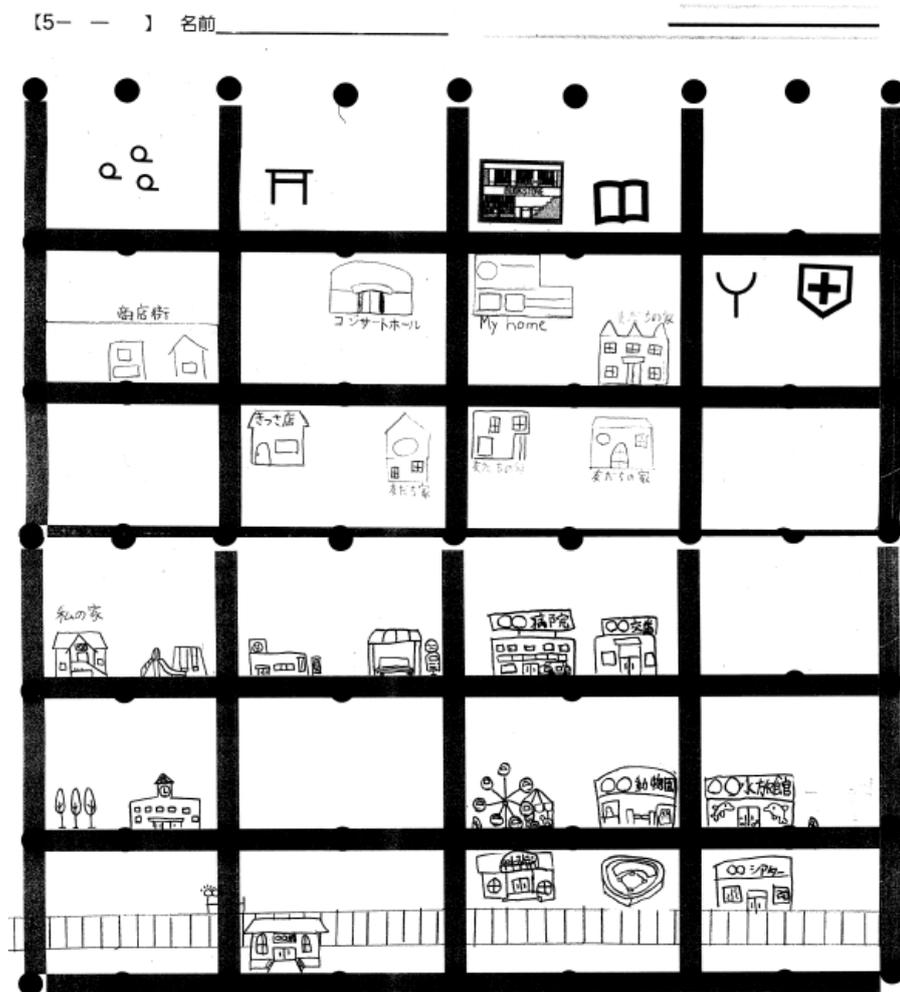
道案内の説明を聞いて、正確に聞き取り応えている。道案内に関する基本的な表現を用いて、丁寧に場所をたずねたり、答えたりしている。また、相手の理解度に応じて、話す速度を調整したり、ジェスチャーを使うなど工夫して伝えようとするなどの状況が考えられる。

パフォーマンステスト例（小学校）

○児童一人一人が作成したオリジナルタウンマップ（例）



○オリジナルタウンマップを友達とつなげて作った町



小5

【書くこと】

学び方みつけた！ 2 書くときのルール
アルファベットを4線の上に正しく書こう

1 「札幌 CAN-DO スタandard」の形での学習到達目標（小中つながり編）との関連

○アルファベットの活字体の大文字・小文字を書くことができる。【w1】

2 単元名・単元の目標

単元名：NEW HORIZON Elementary5 『学び方みつけた！2 書くときのルール』

相手によりよく分かってもらえるように、文字の高さや形の特徴を捉え、大文字・小文字を活字体で書くことができる。【書くこと】

3 本時の学習内容

学習活動	留意点
<ul style="list-style-type: none"> ・絵辞書を参考にし、ABCDE と abcde を4線の上に書く。 ・一番上手に書けたと思う文字に○をつけ、その理由を書く。 ・気付いたことを話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 大文字と小文字で似ている文字がある。 直線や曲線で文字ができています。 大文字の B の縦線と横線は第2線の少し下で重なる。 大文字は基線より下にはいかない。等 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・最初に書いた活字体を見直し、よりよく書ける文字は赤で修正をする。 ・もう一度、ABCDE と abcde を4線の上に書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の書いた文字を捉え直すことで、文字の形の特徴に着目できるようにする。 ・捉えた特徴を生かした文字を書けるようにする。 ・最初に書いた活字体と比べたり、友達と比べたりし、上達したところに目が向くようにする。

5 本単元における「書くこと」における評価規準例

	知識・技能	
a		4線や読み手にとって読みやすい字になるよう意識して書いている。
b		4線を意識して書いている。
c		4線を意識して書いていない。

5 留意点

- ・はみ出しているかどうかなど、正確さを見取っているため、知識及び技能で評価する。
- ・最初に書いた活字体と指導後に書いた活字体の変化から、その児童の取組の様子を見取るなど、粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整(相手によりよく分かってもらうために丁寧に書く)しようとしているかについても見取る場合は、児童の書くことに関する粘り強い努力や自己調整の兆しを捉えるために、振り返りを書かせることも有用です。

小6

【話すこと（やり取り）】

Unit2 How is your school life?
日常生活について伝え合おう

1 「札幌 CAN-DO スタンド」の形での学習到達目標（小中つながり編）との関連

○名前や好きなもの・こと、誕生日、日常生活や日課、世界の国や有名なものについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、その場で質問したり質問に答えたりできる【i4】

2 単元名・単元の目標

単元名：NEW HORIZON Elementary 6 第6学年

『Unit2 How is your school life? 日常生活について伝え合おう。』

普段していることやクラスメートがきっと知らないと思う宝物について、学習した表現を用いて、相手に分かりやすくなるよう工夫しながら伝え合うことができる。【話すこと[やり取り]】

3 単元の学習内容

校時	学習内容	学習活動・言語活動
指導前 (既習)	NHEI Unit5, Unit8	自分の宝物や他者を紹介する活動を通し、「日常生活で使用するもの」「頻度」「一日の生活」の英語表現を学習している。
1・2	Starting Out 場面の順を考えながら、英語を聞く。 	映像の視聴を通し、世界の子供たちの学校生活や日課について、内容を推測しながら聞き、おおよその内容を理解する。
3・4	Your Turn 日常生活や宝物を伝え合う。	①Small Talk～ふだん何時に寝るのかたずね合おう～ ②音声から登場人物の日課を聞き取る。  ③児童同士で普段していることについてたずね合う。 ④Small Talk～○曜日に何をするかたずね合おう～ ⑤音声から登場人物の宝物について聞き取る。  ⑥自分の宝物について、友達と伝え合う。
5・6 (評価)	Enjoy Communication 3人日一組で「話す役」「聞く役」「見る役」で発表をし合う。	①Small Talk～○曜日の朝に何をするかたずね合おう～ ②宝物紹介カードを友達と読み合う。 ③スピーチ内容をふくらませ、ペアで練習する。 ④3人一組で、宝物や日常生活を発表する。
7・8	Over the Horizon 世界の人々の生活について考えよう。	①Small Talk～宝物をたずね合おう～ ②世界の人々が大切にしているものについて知り、考える。

4 パフォーマンステスト例

(I) 対話例

<p>T: Hi, What do you usually do on Sundays? S: I usually play the piano on Sundays. I like music. T: Oh, I see. S: What do you usually do on Sundays? T: I usually watch soccer games on Sundays. My treasure is this soccer ball. What is your treasure? S: My treasure is my piano. T: That's nice!</p>	<p>I like music. 等、その理由を付け加えることも考えられる。</p> <p>児童には、指導者の宝物か日課のいずれかを尋ねるように伝え、質問させる。</p>
---	---

(2) パフォーマンステストの実施方法・留意点

- ・児童は近くのペア同士でのやりとりが終わった後、たくさんの友達とやりとりをする。
- ・たくさんの友達とやりとりをする中、必ず1回指導者ともやりとりをするように伝える。
- ・その際に指導者は評価をする。

(3) 指導のポイント

①事前指導

- ・身振りや表情、ジェスチャーなどの非言語的要素も使用するよさを取り上げる。
- ・Small Talk で、○曜日に何をするのかたずね合う際に、話の広げ方に触れる。
 （既習の I like ---. や I can ---.等を付け加えることで、くわしく説明するなど。）

②事後指導

- ・自己評価により、自分のパフォーマンスの振り返りをさせる。
- ・「努力を要する状況」(c) と記録に残す評価した児童がいた場合には、その後の指導改善を図るとともに、改善点について、振り返りシート等に記入して助言したり、口頭で伝えたりするなど、学習改善につながる手だてを継続して行うようにする。

5 本単元における「話すこと[やり取り]」における評価規準例

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
場面	第3時・第4時	第5時・第6時	第5時・第6時
方法	行動観察	行動観察・面接	行動観察・面接
話すこと[やり取り]	<知識> 普段していることや自分の好きなことを伝える語句や表現を理解している。	普段していることやクラスメートがきっと知らないと思う宝物について、学習した表現を用いて、相手に分かりやすくなるよう工夫しながら伝え合っている。	普段していることやクラスメートがきっと知らないと思う宝物について、学習した表現を用いて、相手に分かりやすくなるよう工夫しながら伝え合おうとしている。

■ 「十分満足できる」状況(a)と判断される例

普段していることを伝える際に、既習表現を用いてくわしく説明したり、I like music. など、その理由を付け加えることも考えられる。更に、たずねられた内容に即し、好きなもの・ことを答える際、I like ---, too. など、更に自分の事も付け加えたり、I like French fries. Do you like French fries? など、相手に質問をしたりするなどして、話を広げている状況が考えられる。

小6

【話すこと[発表]】

Unit5 We all live on the Earth.

食物連鎖（フードチェーン）について発表しよう

1 「札幌 CAN-DO スタandard」の形での学習到達目標（小中つながり編）との関連

○自分の夏休みの思い出や地球に暮らす生き物、自分が作ったメニューについて、授業で学習した言葉や表現を使って話すことができる【s5】

2 単元名・単元の目標

単元名：NEW HORIZON Elementary 6 第6学年

『Unit5 We all live on the Earth. 食物連鎖（フードチェーン）について発表しよう。』

地球に暮らす生き物の住んでいる場所や食べるもの、また食物連鎖について考え、そのつながりについて楽しく伝えるために、どのような発表にしたらよいかを考え、フードチェーンカードを基にしながら、発表することができる。【話すこと（発表）】

3 単元の学習内容

校時	学習内容	学習活動・言語活動
1・2	Starting Out 生き物の暮らしに関するクイズを聞く。 	・映像の視聴を通し、地球に暮らす生き物について考え、そのつながりについて、内容を推測しながら聞き、おおよその内容を理解する。
3・4	Your Turn 地球の生き物たちについて伝えよう。 	①Small Talk～海で見られる生き物をたずね合おう～ ②音声から生き物の住んでいる場所や食べ物について聞き取る。 ③児童同士で生き物の住んでいる場所や食べ物についてたずね合おう。 ④Small Talk～〇〇(動物名)は何が上手にできるのかたずね合おう～ ⑤音声からウミガメについて聞き取る。 ⑥生き物の食べ物について友達とクイズを出し合う。
5・6 (評価)	Enjoy Communication 食物連鎖（フードチェーン）について発表しよう。 	①Small Talk～〇〇(動物名)はどこに住んでいる場所をたずね合おう～ ②フードチェーンカードを友達と読み合う。 ③スピーチ内容をふくらませ、ポスターを作る。 ④グループで食物連鎖について発表する。
7・8	Over the Horizon 環境について考えよう。 	① Small Talk～〇〇(動物名)の食べ物は何かをたずね合おう～ ②地球の環境を守るためにできることを知り、考える。

4 パフォーマンステスト例

(I) 発表例

ABC: Hello, everyone.
A: Where do bears live?

パフォーマンステスト例（小学校）

<p>Bears live in the forest. B: What do bears eat? Bears eat salmon and nuts. Bears are strong. C: Salmon eat shrimp. Salmon can swim fast. We all live on the Earth. ABC: Thank you for listening.</p>	<p>生き物が食べるものに加えて、生き物の様子について伝えている。また、その内容に合わせて、ジェスチャーを加えて分かりやすく伝えている。</p>
--	--

(2) パフォーマンステストの実施方法・留意点

- ・発表用のポスターを作り、見せながら発表する。また、端末を用いてグループあるいは個人で作成し、TVに映し出して見せながら発表することも考えられる。
- ・5校時は、発表グループと聞くグループに分かれて、2グループが一組となって練習し、6校時は学級全体でグループ発表をすることが考えられる。
- ・「話すこと [発表]」における評価は、5校時の練習場面から評価の対象とするか、6時間目の全体での発表場面で評価するのか、評価計画をしっかりと決めておく必要がある。

(3) 指導のポイント

① 事前指導

- ・発表では馴染みのない動物名が出てくることが考えられる。その際、ALT に発音を教えてもらったり、ポスターで動物について紹介するなど、聞き手に分かるように工夫するよう指導するとともに、発表に用いる語の定着を十分に図って、自信をもって発表できるように準備する。
- ・相手によりよく自分のことを伝えるために、伝える内容を整理して話したり、身振りや表情、ジェスチャーを用いて分かりやすくする工夫等について、気付かせる指導も考えられる。

② 事後指導

- ・自己評価により、自分のパフォーマンスの振り返りをさせる。
- ・「努力を要する状況」(c) と評価した児童がいた場合には、その後の指導改善や、学習改善につながる手立てを継続して行うようにする。例えば、第5時の発表練習の場面での行動観察を踏まえ、児童のつまずきに応じて助言や支援を行ったり、児童の改善状況を見取るようにすることも考えられる。

5 本単元における「話すこと [発表]」における評価規準例

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
場面	第3時・第4時	(第5時)・第6時	(第5時)・第6時
方法	行動観察	行動観察・発表	行動観察・発表
話すこと [発表]	<知識>生き物の名前や住んでいる場所や食べ物を表す語について理解している。 <技能>生き物の住んでいる場所や食べるものについて、前もって調べたことを基に話す技能を身に付けている。	生き物の住んでいる場所や食べるもの、また食物連鎖について楽しく伝えるために、どのような発表にしたらよいかを考え、フードチェーンカードを基にしながら、発表している。	生き物の住んでいる場所や食べるもの、また食物連鎖について楽しく伝えるために、どのような発表にしたらよいかを考え、グループメンバーと協力しながら、主体的に発表しようとしている。

■ 「十分満足できる」状況(a)と判断される例

生き物が食べるものに加えて、既習表現の can や strong/big/small などの既習事項を用いて、動物の特徴や様子について生き物の様子について伝えている。また、相手がよく分かるように、内容に合わせて、ジェスチャーを加えたり、ポスターを指で示すなど工夫している状況が見られる。

小6

【書くこと】

学び方みつけた！ 2 書くときのルール
アルファベットを4線の上に正しく書こう

1 「札幌 CAN-DO スタンド」の形での学習到達目標（小中つながり編）との関連

○名前や好きなもの・こと、誕生日、行ってみたいおすすめの国や地域とそこでできることについて、語順を意識しながら、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができる。
【w4】

2 単元名・単元の目標

単元名：NEW HORIZON Elementary 6 第6学年 『学び方みつけた！2 書くときのルール』

相手によりよく分かってもらえるように、文字と文字、語と語の間隔を適切に取ることに留意しながら、英文を書くことができる。【書くこと】

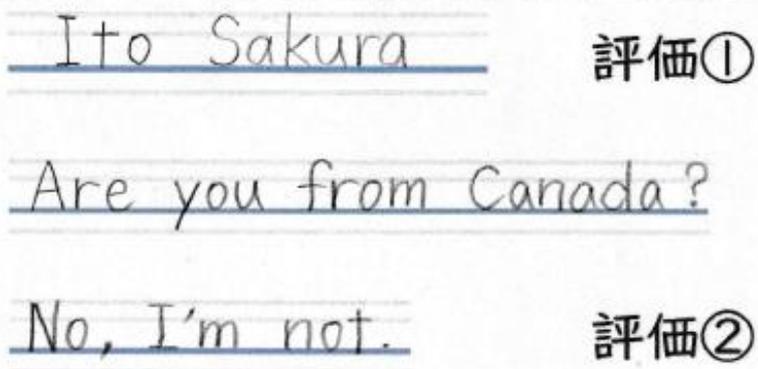
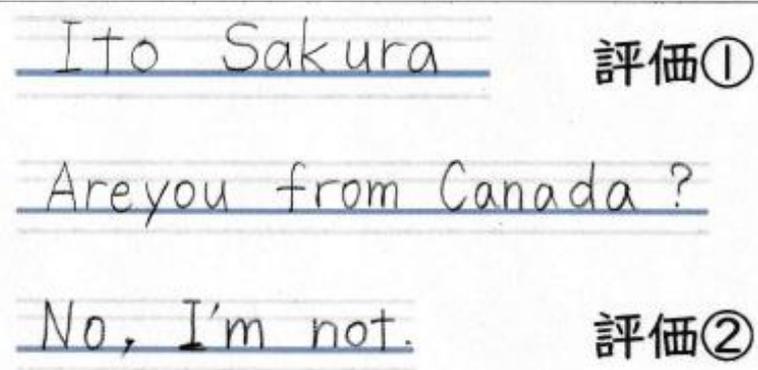
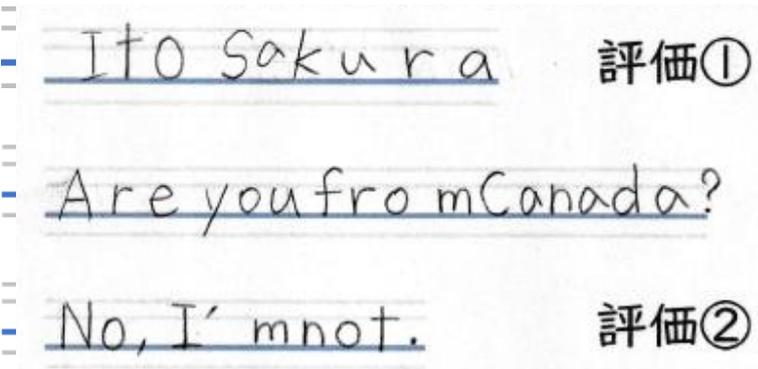
3 本時の学習内容

学習活動	留意点
<p>・『きれいに』自分の名前を4線の上に書く。</p> <p>・ペアで書けたものを交換し、お互いに見合う。『きれいだ』と感じたところとその理由を伝え合う。</p> <p>・教科書 P.32①を参考にし、単語を書くときのルールについて気付いたことを話し合う。</p> <p>・字と字の間隔に留意し、もう一度自分の名前を4線の上に書く。</p> <p style="text-align: center;"><u>Ito Sakura</u> 評価①</p> <p>・教科書 P.32②の文を提示し、文を書くときの7つのルールを考える。(ペア→全体)</p> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><u>Are you from Canada?</u></p> <p><u>No, I'm not.</u></p> </div> <p>・単語を書くときは字と字の間隔に気を付けたけど、文を書くときは、語と語の間隔にも気を付ける必要がある。</p>	<p>・自分の書いた文字を捉え直すことで、字間のバランスに着目できるようにする。</p> <p>・字と字の間隔に留意した文字を書けるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>①文は大文字で始める。</p> <p>②単語と単語の間は小文字1字くらいあけて書く。</p> <p>③疑問文では、文の終わりに『?』をつける。</p> <p>④Yes, No,の後には『,』をつける。</p> <p>⑤『I』はいつも大文字になる。</p> <p>⑥『 ' 』はアポストロフィと言う。</p> <p>⑦文の終わりには『.』をつける。</p> </div>
<p>・単語の字と字の間隔、文の語と語の間隔に気を付けて、上の文を書き写す。</p> <p style="text-align: center;"><u>Are you from Canada?</u></p> <p style="text-align: center;"><u>No, I'm not.</u> 評価②</p> <p>・文字を書くときに気を付けることを振り返る。</p>	<p>・最初に書いた自分の名前と比べたり、友達と比べたりして、どのようなところが上達したかについて、伝え合うなどして、よいところに目が向くようにする。</p>

パフォーマンステスト例（小学校）

4 評価のポイント

他者に配慮しながら（相手によりよく分かってもらえるように）書くという観点から、文字と文字、語と語の間隔を適切にとって書いているかを見取る。

	知識・技能
a	 <p style="text-align: right;">評価①</p> <p style="text-align: right;">評価②</p> <p>※文字と文字、語や語の間隔に適切なスペースをおいて適切に書いており、「十分満足できる」。</p>
b	 <p style="text-align: right;">評価①</p> <p style="text-align: right;">評価②</p> <p>※文字と文字、語と語の間隔が適切でないところもあるが、「おおむね満足できる」。</p>
c	 <p style="text-align: right;">評価①</p> <p style="text-align: right;">評価②</p> <p>※文字と文字、語や語の間隔を意識して書いておらず、「努力を要する」。</p>

5 留意点

- ・自己紹介に関することについて、音声で十分に慣れ親しんだ上で、記録に残す評価を行う。
- ・行動観察やワークシート記述分析において、(c)となった児童は、次の単元以降でも Let's Read and Write で「わたしのせりふ」を書く場面等で継続した指導や支援を行い、改善状況を見取りつつ、(b)を達成できるようにする。

小6

【話すこと（発表）】

Unit7 My Best Memory
小学校の思い出を伝え合おう

1 「札幌 CAN-DO スタンド」の形での学習到達目標との関連

○小学校生活の思い出や中学校生活や将来の夢について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、発表することができる。【s6】

2 単元名・単元の目標

単元名：NEW HORIZON Elementary 6 第6学年

『Unit7 My Best Memory 小学校の思い出を伝え合おう。』

小学校での日常生活や学校行事等について振り返り、思い出について伝えるためにはどのような発表にしたらよいかを考え、アルバムシートを見せながら工夫して発表することができる。【話すこと（発表）】

3 単元の学習内容

校時	学習内容	学習活動・言語活動
指導前 (既習)	NHE1 Unit4, Unit5 NHE2 Unit4, Unit5	道案内をする活動を通し、「建物」等の英語表現を、また夏休みの思い出を伝え合う活動を通して、簡単な過去形についての英語表現を学習している。
1・2	Starting Out 場面の順を考えながら、英語を聞く。 	・映像の視聴を通し、日本や世界の子供たちの小学校生活について、内容を推測しながら聞き、おおよその内容を理解する。
3・4	Your Turn 学校行事を通して小学校生活を伝え合う。 	①Small Talk～楽しかった学校行事を伝え合おう～ ②音声から登場人物の学校行事について話を聞き取る。 ③児童同士で楽しかった学校行事についてたずね合う。 ④ Small Talk～学校行事の感想を伝え合おう～ ⑤児童同士で楽しかった学校行事についてたずね合い、行事名を4線に書き写す。 ⑥児童同士で楽しかった学校行事やその感想を伝え合う。
5・6 (評価)	Enjoy Communication 小学校の思い出アルバムを作り、紹介し合う。	①Small Talk～学校行事での出来事をたずね合おう～ ②アルバムシートを友達と読み合う。 ③スピーチの話す順番を決めたり、伝えたい内容を選んだりして、スピーチをふくらませ、ペアで練習する。 ④聞く人の反応を受けながらスピーチをし合う。
7・8	Over the Horizon 世界の学校生活について考えよう。	①Small Talk～小学校生活の思い出を伝え合おう～ ②世界の人々がどのような学校生活を送っているのかについて知り、考える。

パフォーマンステスト例（小学校）

4 パフォーマンステスト例

(1) 発表例

<p>S: Hello. My best memory is our school trip. We went to Toya. T: Sounds fun. How was it? S: It was wonderful. We ate Chan-chan-yaki. It was delicious. We saw fireworks. I enjoyed talking with my friends.</p>	<p>話す順番だけではなく、自分の考えや気持ちを適宜入れることも考えられる。</p>
--	--

(2) パフォーマンステストの実施方法・留意点

- ・児童はグループ内で発表をし、終わったら違うグループに対して発表をする。聞き手に指導者を必ず加えて、その際に評価する。聞き手がALTの場合、コミュニケーションの必然性が高まるが、記録に残す評価場面とするかについては、計画的に進める必要がある。
- ・上記の他に、言語活動の様子を数回に分けて観察して評価する方法もある。

(3) 指導のポイント

①事前指導

- ・Small Talk を通し、Did you enjoyed ~? を伝え合う際に、Yes./No.だけではなく、感想や理由を使え加え等の話の広げ方に触れる。（既習の It was ---. で感想を述べたり、I ate --- のように事実を付け加えることで、くわしく説明するなど。）

②事後指導

- ・自己評価により、自分のパフォーマンスの振り返りをさせる。

相手の人	話す人の役	聞く人の役
	①相手にシートを見せて話した。 ②聞く人の反応を受けて話した。	①相づちを入れられた。 Oh, I see. / Me, too. Oh, () ←繰り返し
〇〇さん	   	   

5 本単元における「話すこと[発表]」における評価規準例

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
場面	第3時・第4時	(第5時)・第6時	(第5時)・第6時
方法	行動観察	行動観察・発表	行動観察・発表
話すこと「発表」	<知識>小学校生活の思い出を伝え合う語句や表現について理解している。 <技能>小学校でしたことについて、前もって整理しておいた情報を基に話す技能を身に付けている。	小学校生活の思い出について伝えるためにはどのような発表にしたらよいかを考え、アルバムシートを見せながら工夫して発表することができる。	小学校生活の思い出について伝えるためにはどのような発表にしたらよいかを考え、アルバムシートを見せながら工夫して発表しようとしている。

■ 「十分満足できる」状況(a)と判断される例

アルバムシートを読み合い、内容を選んだり、順番を決めたりしながら、主体的に考えや気持ちを伝えようとしている状況や、繰り返しスピーチするなかで、相手のスピーチから学んだことを取り入れ、自分のスピーチの内容を膨らませたり、話し方を工夫している状況が考えられる。

6 留意点

知識・技能については、4 時間目に一度評価した上で、本時では思考・判断・表現を見取る。